

第3次京丹後市総合計画 (案)

目次

I はじめに

- 1. 総合計画とは..... 1
- 2. まち・ひと・しごと創生総合戦略との統合..... 1
- 3. 総合計画の構成と期間 2

II 計画の体系図 3

III 基本構想

第1章 計画の基本理念等

- 1. 基本理念..... 6
- 2. 目指すまちの姿(7つの目標)..... 6

第2章 まちづくりの将来指標

- 1. 人口ビジョン(規模的指標) 13
- 2. ウェルビーイング指標(質的指標) 16

第3章 都市機能構想

- 1. 大動脈と直結する「大交流のまちづくり」..... 17
- 2. 多極ネットワークによる多彩で強靱な、一体型のまちづくり..... 19

IV 基本計画

第1章 4つの基本戦略 24

第2章 まちづくり27の施策..... 36

V 参考

- 1. 京丹後市の概要..... 110
- 2. 人口等の状況..... 112
- 3. 社会動向..... 116

はじめに

1. 総合計画とは

総合計画は、総合的かつ計画的にまちづくりを推進するための計画であり、市民と行政によるまちづくりの方向性を示すもの（京丹後市のまちづくりを共有する手引書）です。また、本市が定める計画の最上位に位置し、具体的な取組等を示す各分野別計画は総合計画に即して策定します。

2. まち・ひと・しごと創生総合戦略との統合

本市では、国の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」や京都府の「第2期地域創生戦略」を踏まえ、令和3年度から令和6年度までを計画期間とする「第2期京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少対策に取り組んできました。

今回、第3次京丹後市総合計画（以下、「本計画」とする）を策定するにあたり、人口減少対策を含め、まちづくりを総合的・一体的に取り組むため、本計画と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の内容を統合し、本市の持続的な発展を目指します。

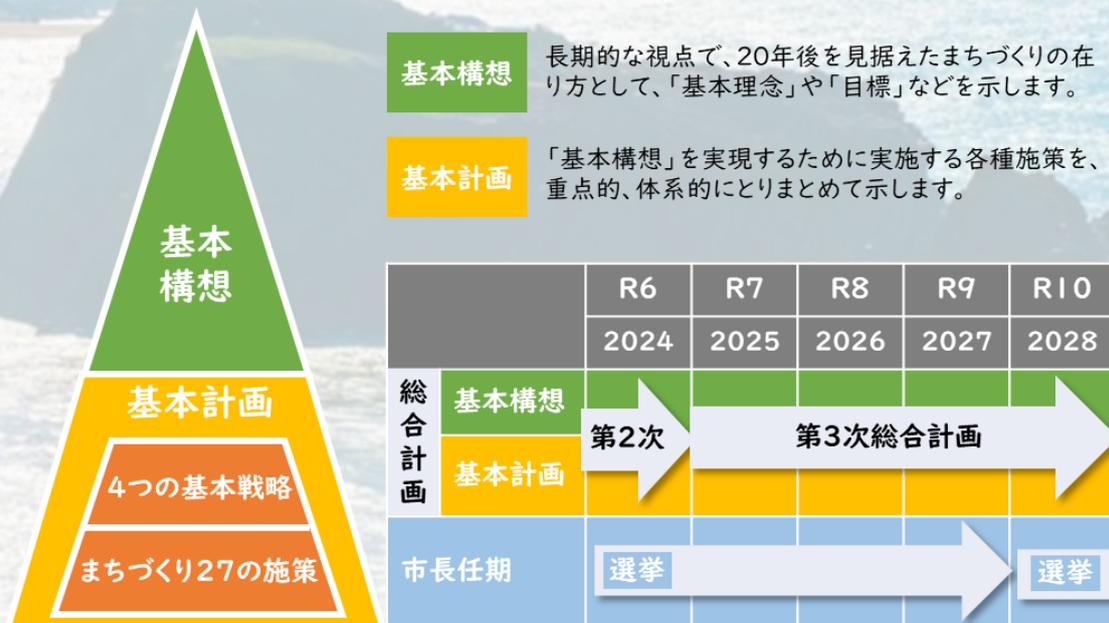
※国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、令和4年12月23日の閣議決定により、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に変更されました。

3. 総合計画の構成と期間

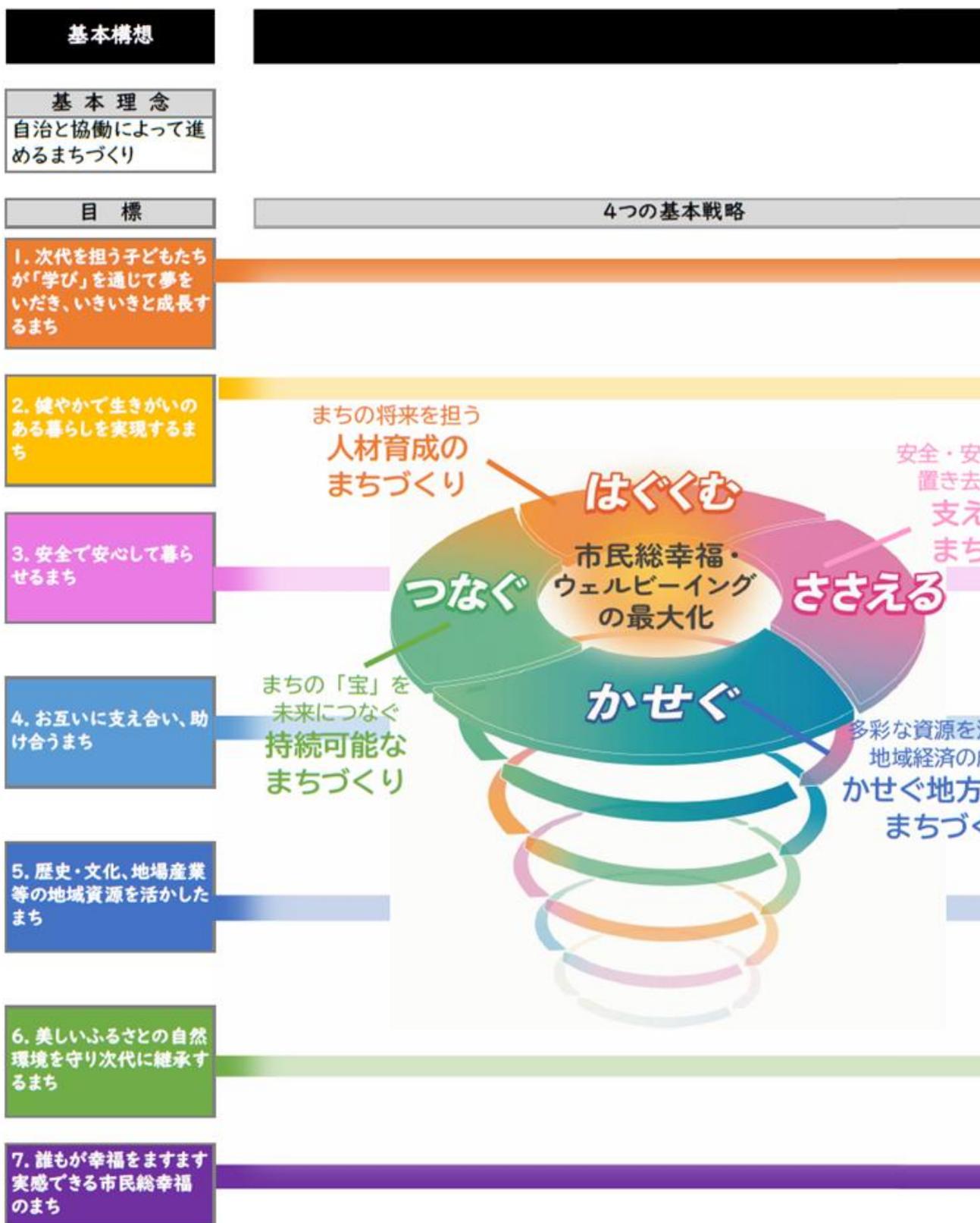
本計画は、長期的に変わらない、目指すまちのビジョンを示す「基本構想」と、当面実施する施策をまとめた「基本計画」で構成します。

また、社会・経済情勢の変化が激しい時代に対応し、短期的に見直し変革していくために、市長任期にあわせた4年間の計画とします。

【総合計画の構成と期間】



第3次京丹後市総合計画の体系図



基本計画

No	まちづくりの施策	はぐくむ	ささえる	かせぐ	つなぐ
1	子育て支援の総合的な推進<子育て支援>	●			
2	未来を拓く学校教育の充実<学校教育>	●			
3	多様な学びを支援する社会教育の充実<社会教育>	●			
4	健やかで生きがいのある健康長寿のまちづくり<健康>		●		
5	持続可能な地域医療体制の充実<医療・保険>		●		
6	地域ぐるみによる消防・救急体制の充実<消防・救急>		●		
7	災害に強く安全・安心に暮らせるまちづくり<防災>		●		
8	防犯・交通安全対策の推進<防犯・交通安全>		●		
9	快適な都市空間の形成<土地利用>				●
10	安全でうるおいのある住環境の形成<住環境>				●
11	高速道路網と安全な生活道路網の整備加速化<道路>				●
12	ひとが行き交う公共交通の充実<公共交通>		●		●
13	きれいな水を循環させる上下水道の整備<上下水道>		●		●
14	誰ひとり置き去りにしない、支え合う助け合う地域福祉の推進<地域福祉>		●		
15	地域の中で共に生きる障害者福祉の推進<障害者福祉>		●		
16	市民参画・共創による地域づくり<地域コミュニティ>	●	●		●
17	一人ひとりの人権と多様性を尊重するまち<人権>		●		
18	地域の雇用・経済を担う商工業の振興<商工業・雇用>	●		●	
19	持続可能な農林業を推進<農業>	●		●	
20	つくり育てる漁業と海業の推進<漁業・海業>	●		●	
21	滞在型観光・スポーツ観光の促進<観光>			●	
22	芸術・文化を活かしたまちづくりの推進<芸術・文化>				●
23	次世代への美しい自然環境の継承<自然環境>				●
24	脱炭素型社会の構築と気候変動への適応<脱炭素>				●
25	ごみの削減と再資源化の推進<廃棄物・循環型社会>				●
26	未来都市の実現に向けた情報基盤の利活用<情報>			●	●
27	行財政改革大綱(効率的・効果的な行財政運営)<行財政>			●	●

基本構想

第1章 計画の基本理念等

1. 基本理念

時代の変化が早く、先の見通せない現代において、京丹後市が持続的発展し続けていくには、行政だけではなく市民と共に協働のまちづくりを実現させていく必要があります。

自治と協働によって進めるまちづくり

■京丹後市まちづくり基本条例（まちづくりの基本理念）

第4条 まちづくりは、市民の福祉の増進と地域社会の発展を目指し、市民及び市が、自治と協働によって進めるものとする。

2. 目指すまちの姿（7つの目標）

まちづくり基本条例に掲げる目標を基本に次のように定めます。



目標1

子育て・教育

次代を担う子どもたちが「学び」を通じて

夢をいだき、いきいきと成長するまち

- 次代を担う子どもたちを健やかに育みます。
- 小中一貫教育など、より良い教育環境を整備します。
- 文化芸術に親しめる環境を充実させます。
- 本市固有の歴史・文化・風土の継承に取り組みます。



目標2

健康・生きがい

健やかで生きがいのある暮らしを実現するまち

- 生涯にわたって学び続けることができ、生きがいのある暮らしを実現します。
- いくつになっても元気に活躍できる、健康長寿のまちづくりを目指します。



目標3

安全・安心

安全で安心して暮らせるまち

- 市民が安心して医療にかかれるよう、地域医療体制の充実を図ります。
- 自然災害から、市民の生命を守るため、防災意識の向上、防災基盤の整備等を推進します。
- 消防・救急体制の充実、防犯・交通安全の取組を推進します。



目標4

福祉・ 地域コミュニティ

お互いに支え合い、助け合うまち

- 地域の協働と人材育成により、誰もが生きやすいまちづくりを進めます。
- 誰もが尊重され、一人ひとりの個性と能力が発揮できる地域社会の実現をめざします。



目標5

産業・文化

歴史・文化、地場産業等の地域資源を

活かしたまち

- 産業基盤の維持・発展、地域経済の活性化を目指します。
- 自然、歴史・文化など、恵まれた資源を地域ぐるみで守り、磨き、活用し、各産業の成長・発展を実現します。



目標6

自然・環境

美しいふるさとの自然環境を守り次代に

継承するまち

- 山・里・海をはじめとする貴重な自然資源を守り、未来へつなぎます。
- 廃棄物の減量化や資源の循環を市民・行政が一体となって推進します。
- 再生可能エネルギー等を積極的に導入し、持続可能で豊かな環境未来都市づくりを進めます。



目標7

幸福

誰もが幸福をますます実感できる

市民総幸福のまち

- 民主的で能率的な行政運営を目指します。
- 普遍的な価値観である「幸福」を行政運営の中心軸とし、施策を展開します。

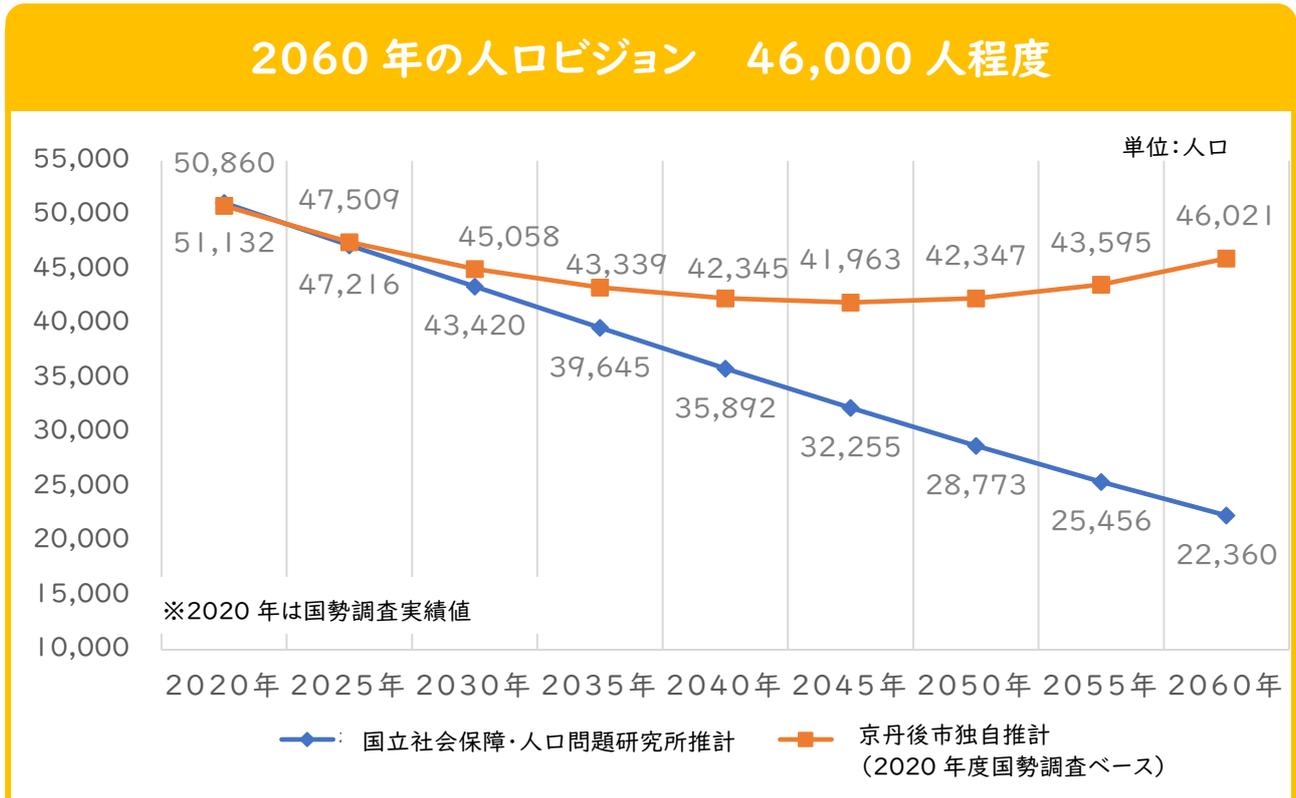


第2章 まちづくりの将来指標

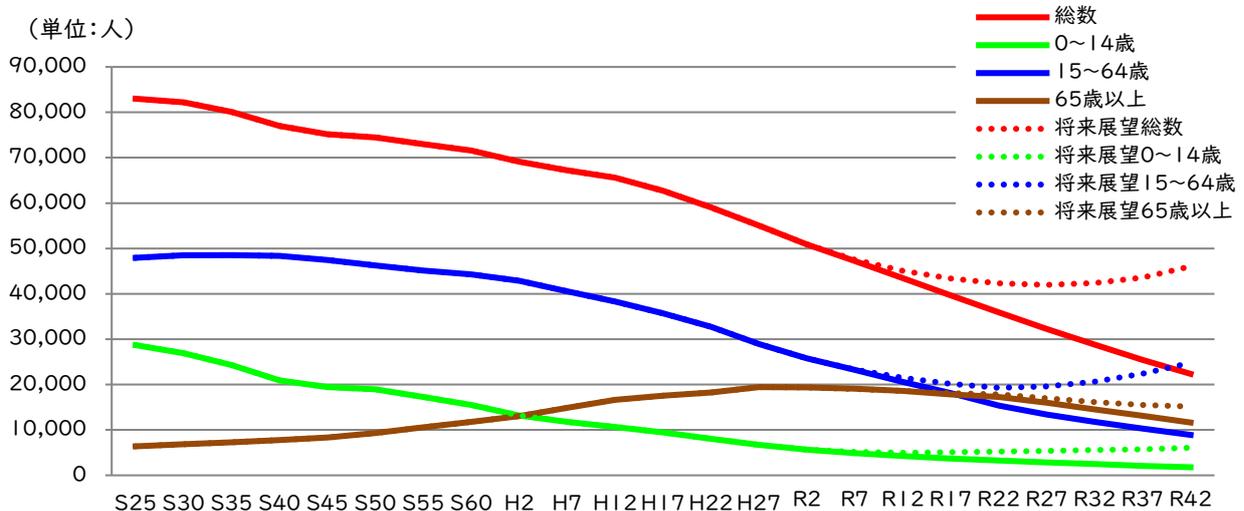
1. 人口ビジョン(規模的指標)

人口減少や少子高齢の加速化が進む中で、人口の増加を見込むことがますます難しくなっています。そのため、人口減少が続くことを前提とし、その現実に適応するための総合的な対策が必要です。一方で、人口減少をただ見守るだけでなく、積極的に人口対策の施策も実行していく中で、その効果が十全に発現されれば、本市は令和42(2060)年に「4万6千人」程度の人口が確保されると期待されます。

2060年の人口ビジョン 46,000人程度



<参考:京丹後市の人口推移・推計>

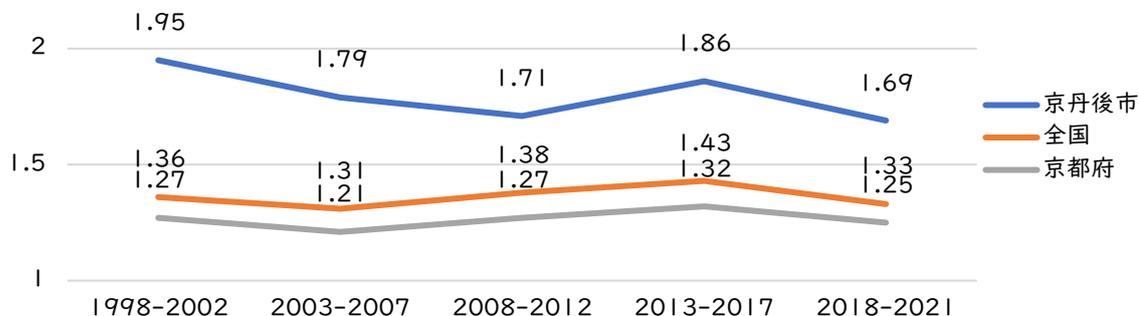


※「京丹後市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(令和4年7月改訂)」から引用

(1) 出生率の回復

本市の特色ある地域環境を活かし続けることで、京都府人口ビジョンにおける想定(目標)を、これまでの本市としての最大経験値である2.3程度まで、向上・回復を目指します。

<参考:合計特殊出生率の推移>

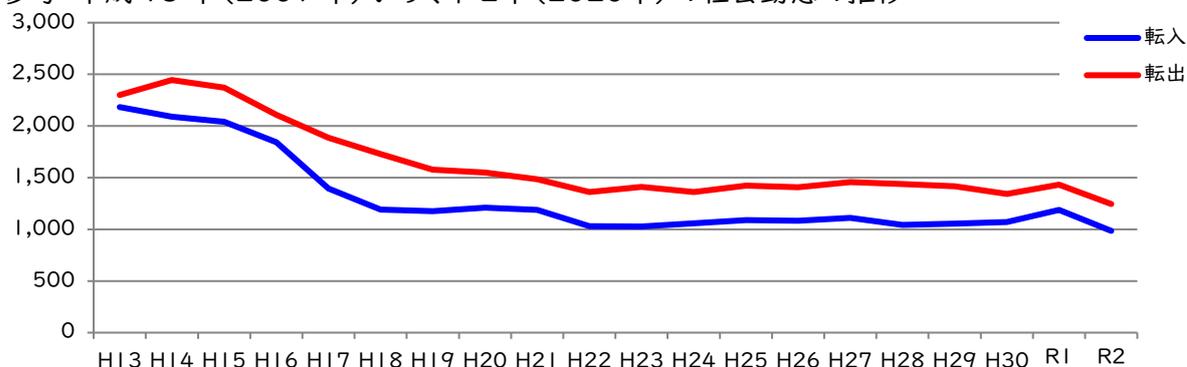


※出典:地域子育て環境「見える化」ツール Ver.2(京都府)

(2) 転入増・転出減による「社会増」

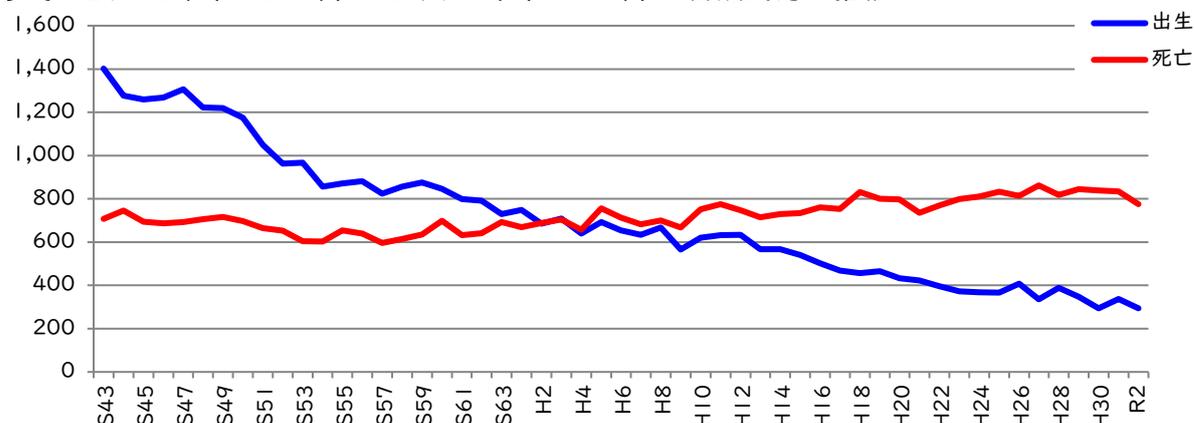
転入を増やし転出を減らす「社会増」を着実に進め、「25歳~49歳の人口移動率を5年ごとに5%ずつ向上」及び「50歳~70歳の人口移動率を同じく5年ごとに1%ずつ向上」することを見込みます。

<参考:平成13年(2001年)から令和2年(2020年)の社会動態の推移>



※「京丹後市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(令和4年7月改訂)」から引用

<参考:昭和43年(1968年)から令和2年(2020年)の自然動態の推移>



※「京丹後市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(令和4年7月改訂)」から引用

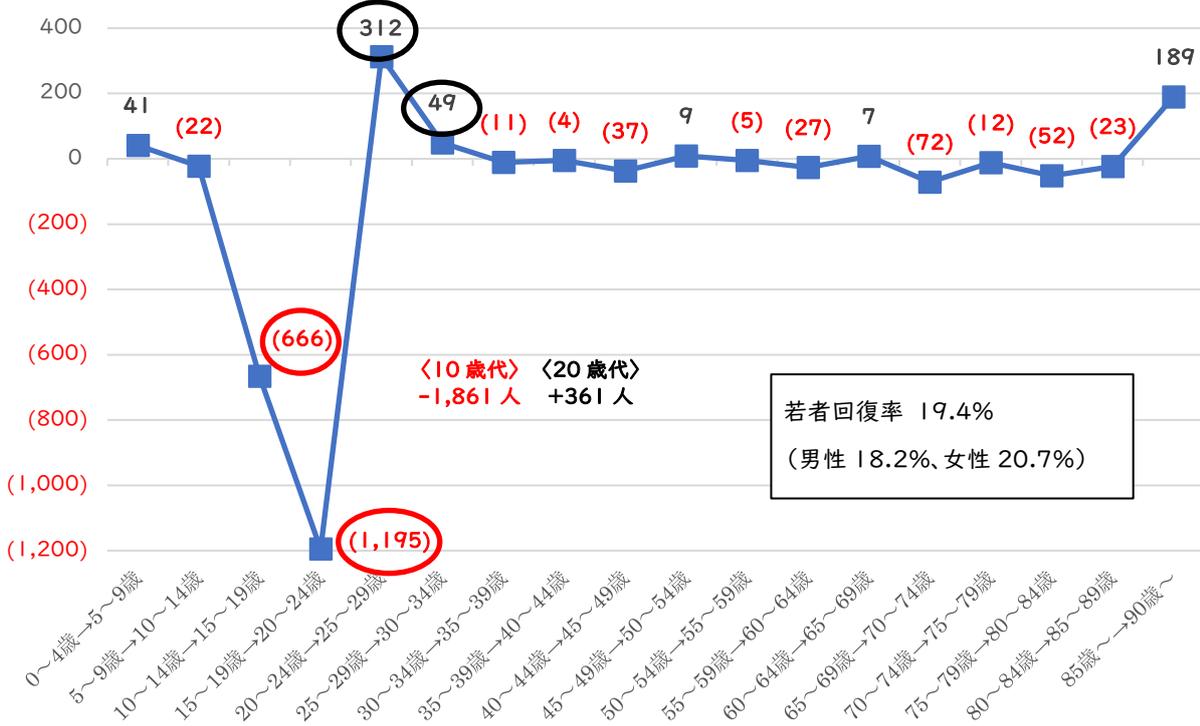
(3) 今後の展望

今後、中長期的にテレワークに資するICT環境をはじめ、各種利便性が向上する都市的環境が本市及び本市周辺で面的に広がり、将来の居住魅力地域に変貌していくことや、更なる出生率向上も含めた対策とその成果の発現が十全になされることで、この数値の実現を目指していくこととする。

<参考資料>

【京丹後市の若者回復率】

2015年→2020年（10歳代転出超過数に対して、20歳代が転入超過した割合）



【若者回復率の推移】

	回復率	男	女
1980年→1985年	29.2%	31.7%	26.5%
1985年→1990年	25.3%	24.7%	25.9%
1990年→1995年	35.9%	37.1%	34.8%
1995年→2000年	43.9%	42.6%	45.4%
2000年→2005年	28.2%	28.3%	28.2%
2005年→2010年	26.5%	29.8%	22.7%
2010年→2015年	27.1%	30.4%	23.5%
2015年→2020年	19.4%	18.2%	20.7%

※国勢調査（2015年度・2020年度）数値から算出

2. ウェルビーイング指標※（質的指標）

市民本位で民主的かつ能率的な行政を進めるためには、普遍的な価値である個人や地域社会の「幸福」を行政運営の中心軸として据え、誰も置き去りにされることのないまちづくりの方向を見定めていくことが重要です。このような認識のもと、市民それぞれに異なる幸福感があることを尊重しながら、一人ひとりが幸福を一層実感できる市民総幸福のまちを目指します。

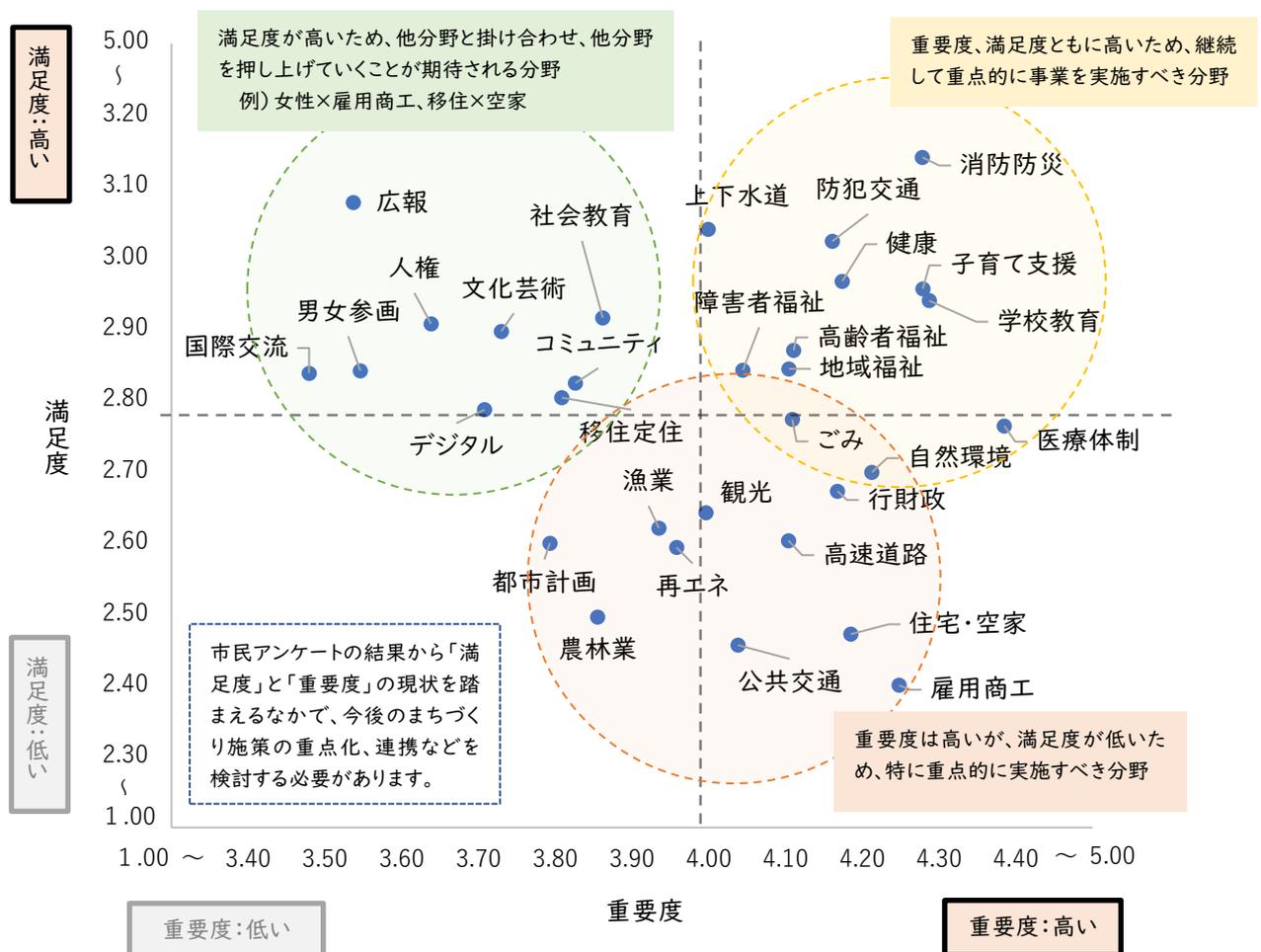
その上で、主観的な幸福を直接的に行政対象とすることは相応の制約を余儀なくされるため、社会的にも良好で満たされた状態にあることを加えたデジタル庁のウェルビーイング指標等を活用し、市民みんなが幸福を一層実感できるまちづくりを実行していきます。

※ ウェルビーイング指標

デジタル庁が、政策立案やまちづくりに役立てることを目的として、アンケート調査等により市民の「暮らしやすさ」と「幸福感」を数値化した指標

第3次総合計画策定に向けたアンケート調査の結果（市の取組に対するの重要度と満足度を抜粋）

調査対象：市民 3,200 人（有効回収数：1,258 人） 調査期間：令和6年2月 23 日から3月 31 日



第3章 都市機能構想

1. 大動脈と直結する「大交流のまちづくり」

(1) 山陰近畿自動車道の整備により「まちづくりの第二ステージ」へ

高速道路網及び公共交通網が整備されることにより、国内各地との「時間距離」が短縮され、より一層の地域活性化が期待されます。

なかでも、山陰近畿自動車道は市内最大の商業集積地域近郊、都市拠点にあたる峰山地内へ近く接続する見込みとなり、さらに、同自動車道の兵庫県境までの市内全線ルート決定を控え、いよいよ、今後のまちづくりをより具体的に展望していける時期を迎えます。

山陰近畿自動車道の延伸 + DX の活用

(縮まる物理的な時間と距離)

(オンラインで距離と時間の制約が最小限×地域資源を最大限活用)



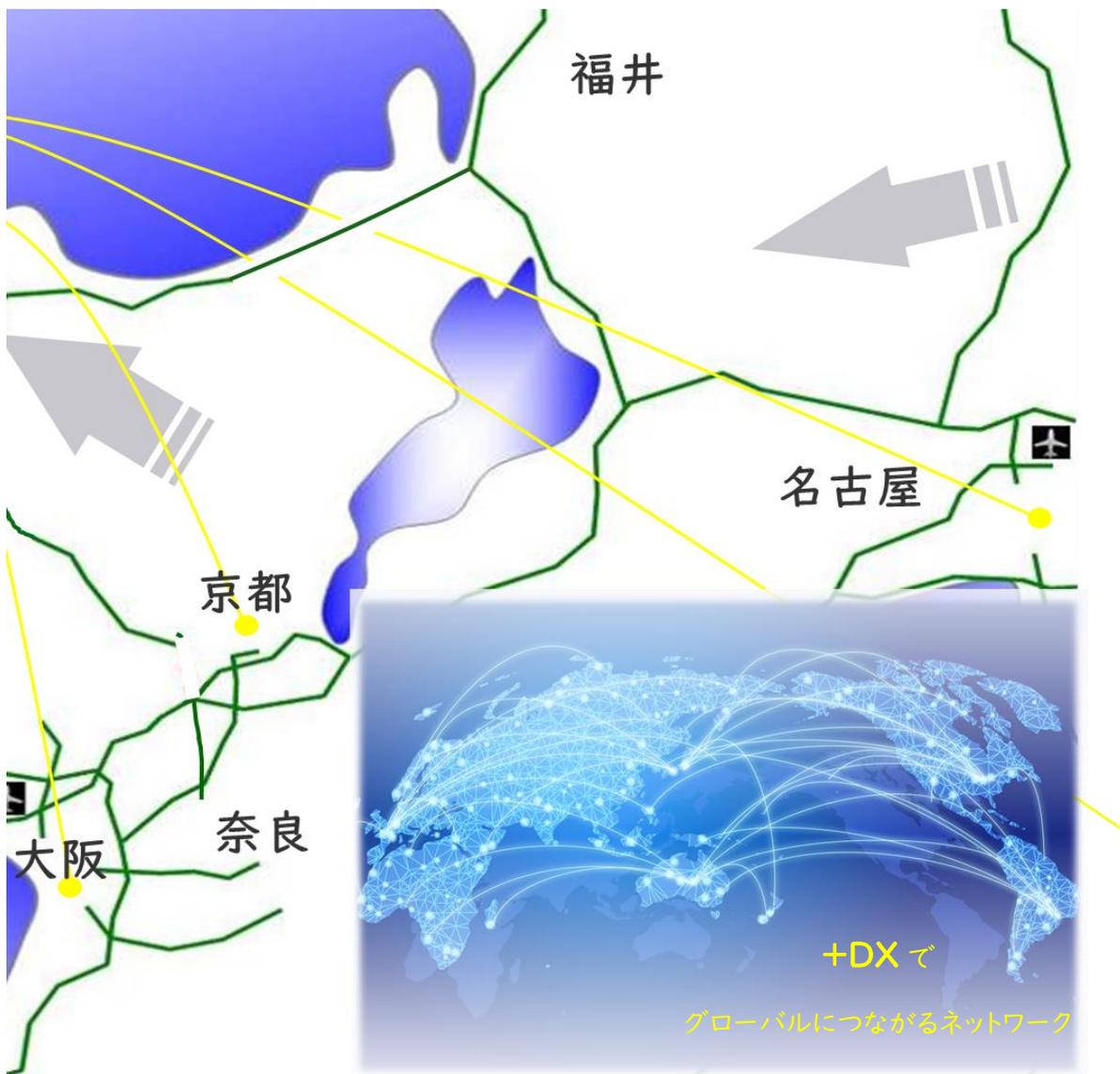
(2) DXで都市部・世界と未来につながる

さらに、ICTなどの技術が発展し、時間や場所に縛られず都市部や世界とつながっています。都市部との物理的な距離のある本市にとって、地理的な距離の制約が小さくなることが他の市町より大きな意味を持つため、本市特有の自然等の魅力を強みに生かした、新たなまちづくりを進めていく必要があります。

このような好機を捉え、移動負担軽減による観光振興、企業誘致等の産業振興、災害・事故時の輸送機能の確保、高次救急医療機関への搬送時間縮減に加え、DXを活用して、日本や世界の都市・地域と直接つながることにより、場所・地域にとらわれない住民サービスの提供や、本市の自然・歴史資源等と未来技術を融合した新たな事業・サービスの創造など、グローバル※な「未来創造型の次世代まちづくり」の実現を目指します。

※グローバル

「グローバル」と「ローカル」を組み合わせた造語で、世界的な視点で見ることと地域の特性を活かすことを融合させた考え方



2. 多極ネットワークによる「多彩で強靱な一体型のまちづくり」

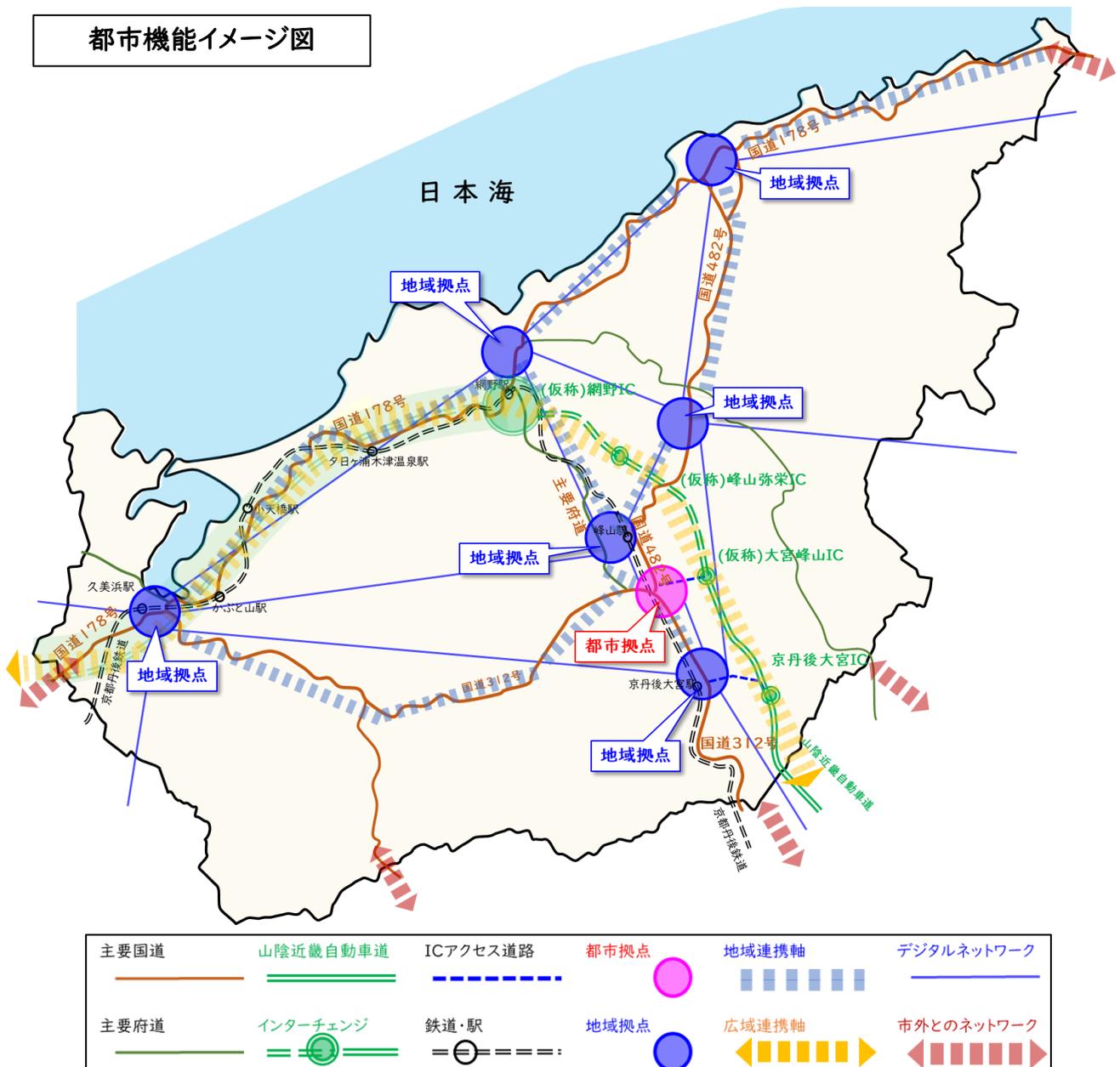
人口減少・少子高齢化が進展し、生産・消費等の地域経済の縮小が懸念されるなか、未来を担う若者世代を含めて人々を惹きつける都市となるため、都市機能の集積や質の高いサービスの提供、新たな価値の創造・イノベーションを生み出すことが必要です。

そのため、核となる拠点を形成し、道路や鉄道、公共交通で結びリアルな連携に加え、場所や時間の制約が少ないDXによるデジタルネットワークの連携を図ります。リアルとデジタルの両面で各拠点を結ぶ「多極ネットワーク」により、市域全体から各拠点到アクセスできるとともに、市外との交流を面的なものとし、多彩で強靱な一体型のまちづくりを実現します。

多極ネットワークとは

医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、あるいは、自家用車を過度に頼ることなく、公共交通やDXにより医療・福祉や商業機能などの日常生活に必要なサービス等が、市内全域の住民にとって身近に存在する考え方。

都市機能イメージ図



【拠点の形成】

利便性の高い機能を集積する都市拠点、日常生活機能に加え6つの町それぞれの地域特色に応じた機能を高める地域拠点の形成を目指します。

(1) 都市拠点

- 市民、市外来訪者等の多様な人々の滞在・交流を促進し、新たな暮らし方・働き方に対応する拠点を目指します。既存商業機能に加え、子育て、商業、芸術文化、娯楽、交流など多くの人が集まる都市機能の集積を図り、歩きたくなる機能的なエリアを形成します。
- 国道312号と482号の交差点付近から商業機能の立地が進む国道312号沿線周辺部を都市拠点に位置付けます。市の新たな玄関口として、市域内外からのアクセスとしての交通結節機能として交通拠点の形成を目指します。

(2) 地域拠点

- 日常生活に必要な生活機能や居住機能の集積と都市機能の分担のほか地域資源を活かした各町の生活の拠点を形成します。
- 各町の市民局周辺の市街地を地域拠点に位置付けます。
- 各地域では、既存の街並みの風情や良さを活かし、また空家や公共跡地等も資源として活用に努め、街並み全体に未来と伝統・歴史といった新旧の調和を取り入れていきます。

【軸の形成】

市外と市内各地域等を結ぶ「広域連携軸」と、拠点間や隣接市町を結ぶ「地域連携軸」を位置付け、市内全域のアクセス性を向上させるネットワークを形成し、人・モノ・ことの流動や防災性を向上させる山陰近畿自動車道を軸としたまちづくりを目指します。

(1) 広域連携軸

- 山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）、鉄道、公共交通を広域連携軸に位置付けます。
- 山陰近畿自動車道の全線開通を促進するとともに、市外と連携した公共交通により各地域へのアクセス性を高め、インターチェンジ周辺の交流支援機能の向上を図ります。

(2) 地域連携軸

- 国道及び主要地方道、鉄道やそれを利用した公共交通を地域連携軸と位置付けます。
- 国府道の整備促進や、空白地の無い公共交通の整備により、機能を補完する拠点間の連絡性の向上を図ります。

※都市機能構想の具体的内容は、令和7年度策定予定の「都市計画マスタープラン」及び「立地適正化計画」により示すこととしています。

基本計画



第1章 4つの基本戦略

基本構想を実現するための戦略を4つに分類し、重点的・分野横断的な取組を記述しています。

4つの基本戦略イメージ

新たな時代潮流・現状認識を踏まえ、**「はぐくむ」「ささえる」「かせぐ」「つなぐ」**の4つの視点を基本戦略として定めます。

各施策の推進にあたっては、**市民総幸福・ウェルビーイングの最大化**を中心軸として、これら結びつけ、持続可能な循環を形成することで、めざすべき将来像の実現につなげます。



基本戦略を進めるための4つのポイント

ポイント1 新たな公民連携の推進

- ・ 将来像の実現に向けて、企業や各種団体、大学等の多様な民間主体と行政が連携し、それぞれが有するアイデアやノウハウ、資金等を活用することで、効率的かつ効果的で良好な公共サービスの提供に取り組みます。
- ・ 公共サービスの質向上、財政負担の軽減、新たな事業機会の創出、地域経済の活性化、地域課題の解決等の様々な効果が期待されます。

ポイント2 DXの加速化を促進

- ・ 人的な資源に限られる中、ICT等のデジタル技術を積極的に取り入れDXを促進することで、この循環を加速していきます。

ポイント3 SDGs[※]の達成に向けて

- ・ 持続可能な社会の実現を目指すSDGsの理念は、将来にわたって持続可能なまちづくりを進め、多様な主体との連携を重視する本市の方向性にも合致しています。
- ・ そのため、京丹後市総合計画においては、SDGsが掲げる17のゴールを各政策と関連付けることで、SDGsと総合計画、地方創生を一体的に進めていくことを目指します。

※SDGs

貧困や地球環境の悪化など、2030年までにさまざまな問題を解決することを目指す世界共通の目標

ポイント4 ウェルビーイング指標の活用

- ・ ウェルビーイング指標を活用し、施策や制度が「市民総幸福・ウェルビーイングの最大化」に向かっているかを定期的に点検し、必要に応じて施策体系を再評価することで、総合計画の実効性を高めていきます。

はぐくむ

まちの将来を担う 人材育成のまちづくり

未来を担う人材を育成するためには、安心して産み・育てられる環境を整えることが必要です。また、経済のグローバル化や情報化が進む中、本市でも地域・産業における担い手を確保することが急務となっています。

そのため、地域資源を活用した特色ある教育や、社会のニーズに応じた教育を通じて、次世代に求められる力を育むことを目指します。また、高等教育機関や企業との連携を深め、ICT やプログラミングなどの先進的な学びが提供される環境の整備に加えて、地域の産業と結びつけた実践的な教育や、U・I ターンや起業家支援の促進も図ります。

地域資源やデジタル技術を活用し、新たなビジネスを創出する環境を整備することで、まちの将来を支える人材をはぐくみ、持続可能で活力あるまちを実現していきます。

重点的な取組

目指せ 子育て環境日本一！

- 安心して産み・育てられる子育て環境を構築します。
(相談しやすい体制や総合的な子育て支援施設の整備、新婚・出産世帯の支援推進等)
- 子育てアプリ導入や学校給食費のさらなる負担軽減を検討します。
- ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現等による「子育てにやさしい職場環境づくり」を進めます。
- 不登校対策、ヤングケアラー対策を推進します。
- 大学などの受験料等の支援制度の創設を検討します。



1 日こども広場の様子

施策
01

「学びの変革プロジェクト」を全力支援

- ICT等を効果的に活用し個別最適、協働的な学びを一体的に充実させます。
- STEAM 教育※1、プログラミング教育※2等によりグローバル人材の育成を図ります。
- 「保幼小中一貫教育」の推進及び「中高連携」の推進により連続的な学びを構築します。
- 多様な学びに対応できる教育環境を整備します。
- 地域資源や仕事に触れる機会の充実、U・I ターン者の奨学金返済支援制度などを通じて、若者のふるさと回帰・定着を促進します。

※1 STEAM 教育

Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Art(芸術・一般教養)、Mathematics(数学)の5つの分野を横断的に学ぶ教育手法



STEAM 教育を取り入れた
Kyotango Sea Labo
プログラムの様子

※2 プログラミング教育

プログラミングを通じてITスキルや論理的思考力を身につける教育

施策
02

高校生や若者のチャレンジ応援

- ・市外在住者を含めた若者・地域・企業が連携したプロジェクトなどの創出を促進します。
- ・高校生や若者の自由な発想によるチャレンジを応援するための場の充実・拡大を進めます。
- ・高校生と地域をつなぐコーディネーターを市内の高校に配置し、高校生の意識の変化や気づきを促し、地元への愛着を醸成します。
- ・都市部大学と地域の連携により、本市資源を活用した地域の活性化と学びによる人材育成を促進します。



京丹後市未来チャレンジ交流センター

施策
16

地場産業を支える未来人材の育成

- ・織物業や機械金属業、担い手不足が加速している農林水産業を未来へ継承していくため、地場産業を支える未来人材の育成を図ります。
- ・地域おこし協力隊など、新規で事業を起こす人を支援する体制を構築していきます。



地場産業の担い手の育成

施策
18

施策
19

施策
20

産業の未来を担う人材の育成・確保

- ・新たなビジネスの創出、地域経済の活性化、多様な就業機会の確保につなげていくため、ベンチャー企業※1等の立地にかかる支援を積極的に行います。
- ・関係機関・高等教育機関等と連携した起業家・スタートアップ企業※2の育成や創業・事業展開にかかる経済的負担の軽減を推進します。

※1 ベンチャー企業

独自のアイデアや技術をもとにして、新しいサービスやビジネスを展開する企業

※2 スタートアップ企業

革新的なビジネスモデルを用いて急成長を目指す事業を行う創業間もない企業

施策
18

多様な生きがいを持てる環境づくり

- ・高齢者対象だった「高齢者大学」は、より多くの市民に学びの機会を提供するため、「市民大学」へリニューアルし、開講します。



市民大学の様々な講座

- ・市民の健康増進や交流の場づくりのため、スポーツ推進のまちづくりを展開します。



京丹後
はごろも
陸上競技場

施策
03

SDGsの17の目標のうち、関係が深い目標を示しています。



ささえ

安全・安心で誰ひとり置き去りにしない
支え合いのまちづくり

「生活の安心の確保」は、本市が将来にわたって持続的に発展していくための基礎となるものです。

誰ひとり、「食べること」「学ぶこと」「働くこと」「生活すること」の不自由さや困難をつくらないということを大きな目標に掲げ、行政が徹底して「生活の安心」をつくるとともに、市民一人ひとりが、支え合いながら、個々の能力を最大限に活かし、いきいきと活躍できるまちづくりを進めます。

加えて、公共交通の充実や生活道路・橋梁の計画的な修繕、頻発する自然災害への備え、持続可能な地域づくりなど、生活の安心・安全性を確保するために、産業・地域・市民生活を支えるハード・ソフト両面での社会基盤整備を推進します。

重点的な取組

生活・命を守る消防力・防災力の強化

- 消防団や自治会、災害応援協定締結団体等と連携し、消防力・防災力の強化を図ります。
- 消火訓練や地震体験などを通して、市民一人ひとりの防火・防災意識の高揚を促進します。
- 防災関係機関との連携強化や民間との災害時応援協定の締結を推進します。
- さまざまな災害を想定し、住民同士の助け合いによる要配慮者支援や女性視点の取り入れなど、住民参加型の実効性のある防災訓練を継続実施します。
- 地域防災力の強化を目指し、自主防災組織や自治会による地域防災マップや地区防災計画の作成などを支援します。



避難所設営訓練の様子

施策
06

施策
07

安心して暮らせる「真の共生社会」実現

- 寄り添い支援総合サポートセンターにおけるワンストップ相談や適切な福祉サービスの提供に引き続き努めていきます。
- 障害の有無に関わらず、互いの個性を認め合い尊重できる社会の実現に向け、心のバリアフリーの促進、世代や分野の垣根を越えて地域全体で支え合うネットワークづくりを進めます。
- 関係機関・団体と連携した人権教育・男女共同参画の啓発活動や、外国人市民に向けた多言語での情報発信、相談体制の充実を進めます。
- 誰もが活躍できる「共生のまちづくり」を目指します。



寄り添い支援総合サポートセンター

施策
14

施策
15

施策
16

施策
17

「百才活力社会づくり」の提唱、推進

- 健康寿命の延伸に向けた取組を進めます。
- 100歳になっても様々な分野で才能を磨き続け、生涯現役で元気に活躍することができる「百才活力社会づくり」を提唱します。
- 高齢者が持つ知識や能力を活かせる場づくりを推進します。(多様な雇用機会の創出、趣味やスポーツなどを気軽に楽しめる環境づくり)



介護予防体操の様子

施策
04

地域包括ケア・医療体制の充実

- 生涯にわたって必要な医療・介護・福祉サービスを受けられる体制の充実、支援に努めます。
- AIやICTを活用して、医療従事者の負担軽減や勤務環境の改善を図ります。
- 市民の期待に応えられる良質で高度な医療機能を維持するため、市立病院の計画的な施設整備を進めます。



通院困難な方への訪問診療

施策
04

施策
05

持続可能で安心な地域づくり

- 「新たな地域コミュニティ」が主体的に行う活動の活性化を推進します。
- 地域ぐるみで防犯、交通安全に取り組み、安心に暮らせる地域づくりを進めます。
- 地域資源を活かした「地域版ふるさと納税」の活用による財源確保など、持続可能な地域づくりを進めます。
- 空家を資源として活かし、移住や二地域居住の促進、事業用途の拠点などへの活用を促進します。



新たな地域コミュニティ推進大会



施策
08

施策
15

京丹後版 MaaS の推進

- 路線バスの廃止による公共交通空白地の解消として、交通関係事業者と連携し、シェアリングエコノミー※1を進めます。
- AIを活用したバス・タクシーの運行や自動運転、MaaS(マース)※2といった新たな交通サービスによる効率的な運行を進めます。

※1 シェアリングエコノミー(共有経済)

個人等の場所・モノ・人・お金などの遊休資産を、インターネットを通じたプラットフォームを介して、他人も利用可能とする経済活動。



※2 MaaS(マース)

「Mobility as a Service」の略。出発地から目的地まで、利用者にとっての最適経路を提示するとともに、複数の交通手段やその他のサービスを含め、一括して提供するサービス。

施策
12

SDGsの17の目標のうち、関係が深い目標を示しています。



かせぐ

多彩な資源を活かして地域経済を強靱化 かせぐ地方創生のまちづくり

持続可能なまちづくりを実施していくために、常に新しい視点を取り入れ、地域一体で「かせぐ力」を最大限に高める基盤を作ることが必要です。労働力人口の減少や消費市場の縮小が進む中で、商工業や観光業の振興、農林水産業の成長、産業化を図ります。また、多様化する価値観やライフスタイルを踏まえた魅力ある雇用機会の創出に取り組み、「しごと」が「ひと」を、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環の確立を目指します。

また、新最終処分場整備などの大型事業を控える中、ますます厳しい財政状況を招くことが懸念されています。そこで、市民生活を将来にわたって支え、地域経済を発展させていくため、「ふるさと納税^{※1}」の適切な活用、大幅な拡充を図ります。まちづくりのための自主財源の確保に努めると同時に、地場産品の安定的な供給確保により、地域経済循環の拡大を図ります。

重点的な取組

地域産業の基盤整備と先端技術の導入を両軸で推進

- 新しい技術を取り込みながら、地域産業の発展と成長に繋がるチャレンジを後押ししていきます。
- 次代の織物振興のためタンゴオープンヴィレッジ^{※1}づくりを支援します。
- 産業間・事業所間の連携や新シルク産業の育成を加速させます。
- 物価高騰、事業承継、経営基盤強化に向けた支援策を推進するとともに、地域企業の持続可能な経営を支えます。
- 産業連関表により、地域内の産業間連携を可視化・強化し、地域経済の循環を促進します。
- 働く人々のウェルビーイング向上を目的に、職場環境の改善を促進する各種施策を展開し、地域企業の魅力を高めます。

※1 タンゴオープンヴィレッジ
製造過程の見学や体験ワークショップを行うなど、丹後ちりめんの魅力を発信する観光拠点



京丹後デジタルポイント



かぶと山虹の家の
コワーキングスペース

- 若手人材を中心とした雇用促進策支援や人材流通機構の設置を検討し、新たな担い手確保に繋がります。
- 市内各所のテレワーク拠点を活用し、多彩な産業、豊かな自然と調和したワーケーション^{※2}等により都市部企業との交流を促進します。
- 世界に開けた地域まるごとオープンファクトリー^{※3}により、地域産業の魅力発信や様々な企業間の連携による産業創出等につなげます。

※2 ワーケーション

「仕事 (Work)」と「休暇 (Vacation)」を組み合わせた造語で、観光地などで休暇を楽しみながら働くこと

※3 オープンファクトリー

ものづくりの魅力を発信のため、工場等の現場を公開し、製造過程や技術を見学・体験してもらうこと

施策
18

自然の恵みを活かした農林水産業

- 大型機械やAI・ICT等先端技術、新技術の検討・実装を支援し、農業の生産性、収益性の向上を進め、生産基盤の安定化を図ります。
- 農産物をはじめとする地域資源を束ね、新たな販路を開拓する「地域商社」との連携を進めます。
- 農商工観連携による農林水産物の6次産業化、環境保全型農業、有機農産物のブランド化を推進します。
- 優良農地の確保や森林・漁場が有する多面的機能の保全、漁港施設の計画的な整備、循環経済を推進します。



R5に竣工した干芋加工場

施策
19

施策
20

ふるさと納税 50 億円をめざして

- ふるさと納税の目標を 50 億円とし、クラウドファンディングによる新商品づくりや企業等誘致を推進します。
- まちづくりのための自主財源確保による財政強化と地域経済循環の拡大を図ります。



施策
27

地域資源を活かした観光の促進

- 多様な地域の資源を守り、磨き、積極的に活用し、「海の京都」を代表する四季を通じた滞在型の観光地づくりやスポーツ観光を進めます。



美食都市 2024 アワード受賞
「旬」や「こだわり」を活かした「食」



ジオパークをはじめとする「自然環境」



網野銚子山古墳などの「歴史文化」

- 2025年大阪・関西万博との積極的な連携を進めます。(協定を締結した大阪観光局との連携によるヘルスツーリズムの推進。世界長寿サミットの開催。)



施策
18

施策
21

SDGsの17の目標のうち、関係が深い目標を示しています。



つなぐ

まちの「宝」を未来につなぐ 持続可能なまちづくり

本市には、豊かな自然環境や古代丹後王国を彷彿とさせる歴史、その中で生まれ、脈々と伝えられてきた文化芸術、多彩な産業など、世界に誇れる多くの資源があり、それらに価値を生み出す人たちがいます。

そうした本市の「宝」を次代に継承していくとともに、将来世代が“可能性”や“誇り”を感じることができ、誰もが“幸せ”を実感できるまちの実現を目指します。そのため、本市固有の資源である歴史・文化や自然環境を活かした取組を、世代や分野・地域・国の垣根を越えた多様な“つながり”の中で実施していく必要があります。加えて、市民生活を支える社会基盤の整備など、まちの持続可能性を高め、日本と世界の未来に貢献する様々な取組を展開します。

重点的な取組

歴史・文化を継承し誇りあるまちづくり

- 歴史・文化を継承していくため、市民がその魅力に触れ、親しむ機会を充実させます。
- 市民が行う文化芸術活動を支援・推進し、市域一帯で文化芸術への関心を高めます。
- 丹後の歴史を物語る「網野銚子山古墳」「丹後震災記念館」などの整備と適切な維持管理・活用を進めます。
- 丹後の歴史文化遺産と自然遺産を保存し、観光や地域振興に活用することで、郷土への愛着・誇りを育み、未来につなぐことを目指します。
- 本市を未来世代へしっかりと継承していくため、合併 20 年記念の市史の編纂を検討します。



丹後震災記念館



京丹後歴史文化めぐりマップ

施策
22

環境に優しく美しいまちづくり

- 本市が有する貴重な地域資源の保護と活用を通じた環境共生のまちづくりを推進します
- 森林整備につながる木材利用を促進します
- 海ゴミ抑制のための意識啓発や、継続的な回収、処理対策を実施します。
- 再生可能エネルギーの域内活用の促進や持続可能な事業を実施するための多様な主体とのパートナーシップの形成に取り組みます。
- 次期ごみ処理施設の整備や、再資源化を進める事業、環境配慮商品を支援し、環境に優しい美しいまちづくりを進めます。



ビーチクリーンで海を美しく

施策
23

施策
24

施策
25

市民の暮らしを豊かにする基盤整備

- 山陰近畿自動車道の全線開通や「山陰縦貫・超高速鉄道」実現などに向けた取組を展開します。
- 子育て支援施設や図書館といった多くの人が集まる都市拠点や地域拠点の整備を推進します。
- ライドシェア等の活用による市域一帯に行き届く交通機能や、きれいな水を循環させる上下水道など、市民の暮らしを豊かにする社会基盤を整備し未来につないでいきます。



国道178号木津バイパス開通式

施策
09

施策
10

施策
11

施策
12

施策
13

人と人をつなぐ創造的なまちづくり

- 市内外の多様な人がつながり、創造的なまちづくりを進めます。
- 様々な人・団体に、本市の魅力や課題に向き合う機会を提供し、まちや人とのつながりを起点として、移住促進、事業承継等につなげていきます。
- 誰一人取り残さない地域とするため、世代、分野を越えた交流による関係性やネットワークの構築を推進します。
- SNS等の活用により行政情報の発信や広聴の充実を図ります。



大学生と連携した地域活性化事業

施策
16

DX推進によるサービスの向上

- 市役所のDX推進により、市民の利便性と業務の効率化を図ります。
- 職員の能力向上や働きがいのある職場環境を整備し、生産性向上と効率的・効果的な行財政運営を目指します。



マイナンバーカードを使用した自動申請書作成システム

施策
26

施策
27

未来につなぐための行財政改革

- 自主財源の確保に向け、ふるさと納税の拡充等による財政強靱化の取組を進めます。

公民連携による取組の促進

- 公民連携の推進により持続可能で活力ある地域経済・社会の実現に向けた取組を促進します。



施策
27

SDGsの17の目標のうち、関係が深い目標を示しています。



